報告事項３

インターナショナルスクールオブ長野小学部の開校後の状況について

県民文化部県民の学び支援課

概要

1	名　　称	インターナショナルスクールオブ長野小学部 校長　栗林　梨恵
2	位　　置	松本市五常 6387 番地 1
3	設 置 者	学校法人インターナショナルスクールオブ長野 理事長　栗林　梨恵
4	学則定員	150 人
5	開校年月日	令和４年４月１日

1　児童数の状況（５月１日時点）

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	申請時計画	定員
R4									
R5									
R6									
うち新入生									
（応募者数）									
県外出身者									

・児童数は減少。ただ、昨年度は年度中途の転出者が想定より多かったが、今年度は年度中途での転出がほとんどなかったため、学習活動の充実や保護者への丁寧な説明等による信頼関係構築などによる改善が見られる。
・特別な支援を必要とする生徒に支援の手厚い公立学校への転学を勧めた等による転出者がいた。

2　教職員の状況（11 月末日時点）

（単位：人）

		校長	教頭	教諭	助教諭	講師	養護教諭	助手	事務職員	バス運転手	その他	合計
計画	計	1	1	8	6	0	1	1	6	2	0	26
	専任	1	1	7	6	0	1	0	4	2	0	22
	兼任	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	4
R6	計	1	1	1	5	7	1	0	6	2	1	25
	専任	1	1	1	5	6	1		4	2	1	22
	兼任					1			2			3
差	計	0	0	▲7	▲1	7	0	▲1	0	0	1	▲1
	専任	0	0	▲6	▲1	6	0	0	0	0	1	0
	兼任	0	0	▲1	0	1	0	▲1	0	0	0	▲1

・教諭が申請時の計画より少なくなっているのは、申請時に講師とすべきところを誤って教諭として申請したためである。なお、学級数より多い、教諭・助教諭・講師をしっかり確保できている。
・教員の研修等の実施により授業改善を図っている。
・感染症等で休暇を取得する教職員が連続して発生する事態もあったため、スタッフの健康管理に配慮していきたい。

3　教育の特徴等

・国際バカロレア認定校として、プライマリー・イヤーズ・プログラムと学習指導要領に基づいた教育を実践。教育課程特例校として、テーマに沿って児童が課題を見つけ、主体的に探究学習を進めていく新教科「国際バカロレア」を中心に、より探求的、教科横断的な学習活動を続けている（例　保護者やプレスクール生を対象にしたイベントを企画するなどの社会と積極的に関わっていく実践的な学習活動等）。

・インターナショナルスクールとして、外国人教員により日常的に英語を使った環境で授業が行われている。

・ハウスシステムという全校を４つのグループに分けて協力して活動するシステム、３年生以上の児童による月に１回程度クラブミーティング（委員会活動）を充実させており、さらに今年度はスポーツや料理などのクラブ活動も実施し、学年を超えた異年齢の交流やリーダーシップを育てる活動をしている。

・課題であった生徒間の英語による会話もスタッフの声がけで増えてきているが、今後は休み時間など、日本人同士の児童間の会話なども英語で話せるように工夫していきたい。

・近隣の公立小学校、中学校との交流を複数回行ない、地域の福祉施設との交流も昨年度に続き行なっている。

・地元の農家や店舗を訪れ、職場体験を行うなど、様々な交流を通して、子どもたちの視野を広げ、コミュニケーション力の向上や探究的な学びを続けている。

・公民館主催の異文化交流イベントにも外国人スタッフの講師派遣を行い、地域貢献活動を行っている。

・来年度も公立学校との交流活動や公民館などのイベントに協力していく予定。

4　収支決算

（単位：千円）

		収入 A	支出 B	当年度収支差額 C＝A－B
令和５年度	申請時の 計　画			
	決　算			